教養部会講師　木村　美奈子

1. 研究活動

【学会発表・口頭発表】			
Considering the Development of Understanding of Iconic Representation through the Prism of Perspective, (大会企画シンポジウム "Toward the second generation of theory of mind research")	2012. 3. 9	日本発達心理学会大23回大会発表論文集pp.122-123	本発表では、誤信念課題の達成と図像的表象の理解とが同じような認知的機能を必要としながらも、その達成の時期に大きな違いがあるのはなぜか、両者の共通点、差異点を整理し、表象理解の新たなモデルを提案した。
現実世界と映像世界の狭間で揺れる子どもたち（自主シンポジウム「幼児の心的世界のゆらぎー表象発達をめぐる謎に挑むー」)	2012. 3. 9	日本発達心理学会大23回大会発表論文集 pp.12-13	本発表では、現実世界と虚構世界を楽しむ大人と幼児期の子どもの違いを比較し、象徴理解の発達と自己の発達について、「透明化」という語をキーワードに考察した。
【学会発表・ポスター発表】			

Can the image of a person on TV "see" what is happening in front of the TV? -Young children's understanding of the representational nature of TV images-	2011. 8. 24	15th European Conference on Developmental Psychology	4歳から6歳の子どもを対象に、実物の人物とその人物を映し出した映像の両方を眼前に見ることのできる場面を設定し、映像の人物が外界の出来事を見ていて実物が見ていないとはっきりわかる場合、その出来事の認識がそもそも映像の人物に成立するか否か、成立するとしたら、その認識は実物に転移するか否かについて、幼児はどのように考えるかを調べた。
幼児における重さの property realism―写真の表象性理解の発達―	2012. 3. 10	日本発達心理学会大23回大会発表論文集 p.533	4歳から6歳の子どもを対象に、写真に「重さ」の property realism を付与するか否かを調べた。同じ大きさのフレームの2つの写真を天秤量りに載せたとき、子どもの反応が、指示対象の実際の大きさの違いと、写真画紙上の被写体の大きさの違いの2つの変数によってどのように影響を受けるかを検討した。
【著書】			
映像やメディア理解をめぐるゆれと発達	2011. 9. 20	『子どもの心的世界のゆらぎと発達―「幼児の表象世界」論』5章担当	共著者：木村美奈子ほか6名 子どもが映像世界をどのように楽しんだり理解したりしているのか、また、それらは発達に伴ってどのように変化していくのか、表象機能の発達と絡めて論じた。
【講演】			
県大で学んだことを 次世代に伝える	2011. 11. 6	教育福祉学部60周年記念学術シンポジウム	筆者の母校である愛知県立大学で、筆者は何を学び、どのような未来が開けたか、また今後、県立大学にどのような教育を期待するか、「教育と福祉」という語をキーワードに展開した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 □有 ■無

授業科目　心理学	
◆前期　◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
様々な分野の心理学を扱う授業なので、ともすれば、一貫性のない授業展開になりやすいが、本講義ではそれぞれの心理学の主要なトピックスを、二つの大きなテーマにそって展開した。また、学生自身が実験に参加できるよう工夫した。さらに、学生には、毎回、授業の感想・質問を書かせ、授業の最初にそれに答える時間を設けた。	ビデオ、パワーポイントなど視覚的な教材を豊富に使用した。特にパワーポイントではアニメーションをできる限り利用し、飽きのこないスライド作りを心がけた。
授業科目　学習心理学	
◆前期　◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
本科目は教職科目でもあるため、学習心理学の基本から、学校現場でも役に立つ	毎回、パワーポイントを用いて授業を行った。学生にはパワーポイント資料の

知識まで、幅広く授業を展開した。また、教員採用試験に対応できるよう、試験対策もできるだけ授業に盛り込むよう心掛けた。	重要点が抜けているところを穴埋め記述させ、重要点が分かりやすいように工夫した。ビデオ教材もできるだけ活用し、飽きの来ない授業を心がけた。	
授業科目　教育相談		
◆前期　◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
本科目も教職科目であるので、今、学校現場で何が起きているのかを、具体的に考えさせる授業を展開した。また、実戦的な観点から、実際に学生同士でカウンセラーとクライアントに分かれ、カウンセリングの練習を行った。授業内容によっては、学生をグループ分けし、グループ討論を実施した。	毎回、パワーポイントを用いて授業を行った。学生にはパワーポイント資料の重要点が抜けているところを穴埋め記述させ、重要点が分かりやすいように工夫した。ビデオ教材もできるだけ活用した。	

3. 学会等および社会における主な活動

日本発達心理学会	2002. 4～現在	研究発表、論文の投稿
日本心理学会	2004. 4～現在	研究発表
日本教育心理学会	2008. 12～現在	研究発表